

▽地域の明日を拓く△

「ない」から「ある」に、意識を変えよう



二戸市観光協会
観光コーディネーター

宮本 慶子

▽きっかけは、いわて復興応援隊

神奈川県横浜市で生まれ育ち、日本体育大学に入学したものの2年で中退。その後は都内で販売や事務、営業などの仕事を転々とし、自分にどんな仕事が入っているのかわからないまま、人生を模索する30代を過ごしていた時に、東日本大震災が発生。その時勤めていた会社を辞めて次の仕事を探すもなかなか決まらず、次第に「人が必要な東北で働けないかな」と思うようになりました。たまたま新聞で募集を見かけて応募した「いわて復興応援隊」（岩手県の事業）に採用されて洋野町役場に配属になったのが2012年10月。これが、私の新しい人生のスタートとなりました。

岩手には親戚も知り合いもいなかったのですが、「おばあちゃんち（母方の祖母）のある福島と同じ東北」という親近感がありました。そし

て、洋野町役場で私を受け入れてくれた担当職員さん達の温かい心が、「きつと何があってもここでやっていける」と思わせてくれました。

▽「ある」ものを生かした活動

岩手に来た印象は、建物や人が少ないので空間が広々としていて気持ちがいい！ということ。身近に海や山があるので、いつでもフラッと出かけて大自然を感じられる。採りたてのものを食べられる。もう満員電車で通勤しなくていい…。「都会より暮らしやすい」と感じました。

当初、「よぐ来だねー。何もないどこだべ?」「こつたら何もねえどこさ、なんで来だの?」とよく聞かれ、その度に私は「え?なんで?何も無いってどういうこと?海も山も川も森も畑も田んぼも土も星も牛も馬も美味しい食べ物も地域ならではの風習や方言も、こんな

にたくさんいいものがあるじゃない!」と全力で思いました。

以前からここに住んでいる人達が地元の良いことを伝えていきたいとしたり、こんなにいい。「何もない」んじゃなくて、「こんなにいい」ということを伝えて行きたい…。という思いが、私の活動の根っこの部分になりました。情報発信の仕事として、洋野町のあちこちに出かけて写真を撮り、ブログやSNSなどで紹介するようになったのですが、その時に大切にしていったのが「人の想いや、モノ・コトの背景にあるストーリーもじっくり掘り下げて伝える」ということです。

これで、地元の人達が見慣れて当たり前だと思っていたり、「何もない」と思っていた日常に、「そんなのあったんだ!」「へー、面白いね」と徐々に気づく、そういう機会をたくさん作ることに力を費やしました。そして、知識や経験や資金も必要なく、た



洋野エモーションで歓迎



子供たちへの語りかけ

だあるものだけを組み合わせた最たるものが、2012年10月に運行スタートしたJR八戸線のレストラン列車「東北エモーション」に、有志が集まって洋野町内の線路沿いの海辺で大漁旗を振って歓迎する活動「洋野エモーション」です。

活動で、地元の人にとってはなんてことのない景色でも、列車に乗っているお客さんには「わーすごい!」「感動!」という特別な瞬間を作り出すお手伝いをしています。お客さんが喜んでくれる顔を見ると、こちらも嬉しくなってくるんですね。最近では、この活動に共感してくれたJR社員さん達が研修やプライベートで参加しに来てくれるようになり、新たな発展に繋がっています。

この10月で活動継続6年になるのですが、ほぼ週4日(金土日月)の運行日に毎回かたつてくれる洋野のエモ仲間たちにとっても感謝しています。誰でもかたつてくれますので、お近くを通る際にはぜひお立ち寄りいただき、一緒に旗を振ってみてくださいませ!

▽洋野から二戸へ

2017年9月で、いわて復興応援隊の5年の任期が終了。もう東京で働く生活には戻りたくないと思っていたので、洋野町やその近辺で仕事を探していたところ、二戸市の観光協会でスタッフを1人募集しているという絶好のタイミングで応募、めでたく採用となりました。仕事以外

時には洋野で培ったことを生かしつつ、とても頼りになる上司と同僚にも恵まれ、楽しく働いています。

仕事は、情報発信、イベントスタッフ、ツアー受け入れサポート、修学旅行誘致など幅広く関わらせてもらっているのですが、市内の学校などで子ども達に「地域の良さを伝える講演」や、JR社員さんから研修等と呼んで頂き「洋野エモーションの活動紹介」をする機会が増えてきて、地域を知ってもらおうきっかけとなっています。これも、「ある」ものを生かして伝え続けて来て、それが少しずつ受け入れられている結果かもしれません。

二戸には、清酒醸造や菓子製造、畜産、園芸作物、そして旅館業など、伝統を守りつつ新しい価値を生み出している素晴らしい企業さんがたくさんあります。なので、講演では子ども達に「特産品などの二戸の宝は、誰かが想いを持って作ったものなんだよ。その部分を考えることを大切にしよう」「地元は何もないのではなくて、たくさん魅力に溢れた町なんだよ」と、伝えるようにしています。そういう意識をもった子ども達が大人になったら、この地域がもっとよくなって行きそうですよね。

職場は二戸駅の観光案内所。日々、心を込めてお客様と向き合いながら、一から二戸のことを学び、

「ない」を「ある」と気づいたことで、東京では自分が働く場所を見つけれなかった私が、岩手では見つけることができました。これからずっと岩手で生きて行きたいです。